土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　その他河川郷谷川通常砂防事業に伴う測量設計業務委託

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　砂防　砂防

ボーリング名	BorNo.1	調査位置	広島県大竹市油見二丁目　地内			北緯	34° 13’ 18.4500″
発注機関	広島県西部建設事務所　廿日市支所			調査期間	令和5年 6月19日～ 令和5年 6月22日	東経	132° 12’ 52.3800″
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	53.91m	角度	180° 上 下 90° 0° 0°	方向	0°北 90°東 180°南 270°西	地盤勾配	0° 水平 鉛直 90°	使用機種	試錐機	YBM-1WA
総削孔長	8.00m								エンジン	ヤンマーTF90M型	ポンプ	YBM　GP-5型

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日	標準貫入試験 深度—N値図	N値	深度 (m)	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
1	53.41	0.50		シルト質砂		暗褐			旧耕土及び崩積土 ・最上位は草木根混じえる黒褐の腐葉土 ・基質は細−中粒砂、φ5−10mm程度以下の鉱物片及び細礫を伴う	6/21 1.66	0 10 20 30 40 50 60	8	1.15	2	3	3	8/300							6/20
				礫混りシルト質砂		暗褐	rd2		崩積土 ・礫はφ50mm程度以下の中−粗礫が混入 ・基質は細−中粒砂から成るシルト質砂			27	1.45 2.15	12	8	7	27/300							
2	52.11	1.80							土石流堆積物 ・玉石は確認石長L=10−20cm程度が混入 ・礫はφ75mm程度以下の円磨度乏しい中−粗礫から成る			24	2.45 3.15	11	7	6	24/300							
3				玉石混り砂礫		暗褐	rd4		・礫種は非常に堅硬な泥質岩、チャート等が主体で基岩同質礫−クサリレキが点在 ・礫間を充填する基質は中−粗粒砂 ・細粒分及びφ5mm程度以下の細礫ならびに鉱物片を伴い粒径幅広い			31	3.45 4.15	7	12	12	31/300							
4													4.45											
5	48.91	5.00		花崗岩		淡褐			粗粒黒雲母花崗岩強風化岩(DH) ・風化変質が進行し岩質は軟質化 ・原岩組織は明瞭に残存するも、長石の一部及び脈状の熱水変質部で粘土化進行 ・採取試料は場所的に岩芯を残すが、概ねでは土柱状を呈し掌で容易に圧潰可能			50以上	5.15 5.21	50/60			50/60	60						
6	47.81	6.10											6.00	50			50	50						
7				花崗岩		淡褐			粗粒黒雲母花崗岩弱風化岩(CL) ・岩相不均質な粗粒花崗岩 ・採取試料は風化核状に残留する硬質部では短柱−岩片状であり、風化漸移帯に相当する脆弱部では岩芯を残す土柱状 ・黄灰色を呈す脈状の熱水変質箇所で粘土化進行 ・硬質部では水平−高角度の節理が不規則に発達、節理面は暗褐色に変色し黄灰の膠着物が挟在			50以上	6.05 7.00	50/貫入不能			50/0	0						
8	45.91	8.00																						6/21
9																								
10																								
11																								
12																								
13																								